

R 6 年 9 月放送分 (防災特別番組)

R6. 8. 23 収録

【パーソナリティー】

ラジオモンスターでは、毎年9月の防災月間に合わせて、各専門分野の方からゲストをお迎えし、「防災特別番組」を放送しています。

本日は、東北防衛局の池松^{いけまつ}局長をゲストとしてお迎えし、お送りいたします。

【局長】

東北防衛局長の池松です。

東北防衛局は、東北6県を管轄区域とする、防衛省の地方支分部局であり、防衛行政の拠点です。防衛施設の建設工事、周辺対策事業をはじめ、地元の皆様と自衛隊・在日米軍の間の架け橋となるべく、様々な業務を実施しています。

こちらのラジオモンスターにおいては、「日本の防衛Q & A」や「自衛隊百科」といった番組に出演させていただいています。

本日は、「防災特別番組」のなかで、お時間をいただきましたので、防衛省・自衛隊の災害発生時の対応に関するお話をしたいと思います。よろしくお願いします。

【パーソナリティー】

はい、池松^{いけまつ}局長よろしくお願いします。

【局長】

防衛省・自衛隊は、自然災害をはじめとする災害の発生時には、被災者の捜索・救助、医療、給水、人員や物資の輸送など様々な災害派遣活動を行っています。

この際、地方公共団体をはじめ、警察、消防、海上保安庁などの関係機関と緊密に連携し、効果的に活動を行うこととしています。

また、特に災害発生直後は、積極的に支援ニーズを把握しつつ、「提案型」の支援を行っています。

全国の陸海空自衛隊は、災害派遣を迅速に行うための初動対処態勢を平素から常時整えており、この部隊を「ファスト・フォース」と呼んでいます。ファストは、First、Action の頭文字の F と A と Support の最初と最後の文字の S と T を組み合わせたものです。

【パーソナリティー】

今年 1 月 1 日の能登半島地震は、東日本大震災を思い出すほどの大きな地震でした。

また、7 月の山形県の大雨による洪水では、自衛隊の皆さんが昼夜を問わず人命救助活動などを行う報道がされていました。

【局長】

はい。まずは、能登半島地震と山形県と秋田県を中心に発生した大雨でお亡くなりになられた方のご冥福をお祈りしますとともに、被災された方々の一日も早い復興を心より祈念いたします。

能登半島地震においては、石川県知事と富山県知事からの災害派遣要請を受け、自衛隊は統合任務部隊を編成して、人命救助活動、輸送支援、給食支援活動などを行いました。これにより、約 1, 0 4 0 名の人命を救助することが出来ました。

地震発生から約一ヶ月後の 2 月 2 日には、自衛隊は統合任務部隊から、地域に密着した陸上自衛隊中部方面隊を中心とする約 1 万人の災害派遣態勢に移行して、被災者に寄り添ったきめ細やかな生活支援活動を実施したところです。

また、山形県内の大雨に際しては、山形県知事から災害派遣要請がありました。これを受けて陸上自衛隊第 6 師団と航空自衛隊秋田、新潟各救難隊が救助活動にあたり、35 名を救助しました。

【パーソナリティー】

台風の時期は特に、大雨が災害になるのではないかと心配です。

ところで、自衛官が災害派遣で使用する装備品には、どのようなものがありますか？

【局長】

はい。時間の関係もありますので、本日は、能登半島地震における災害派遣において活躍した装備品をいくつか紹介したいと思います。

はじめに、陸上自衛隊の^{やがすすいぐ}野外炊具と^{やがいにゅうよく}野外入浴セットです。

^{やがすすいぐ}野外炊具によって、炊く、焼く、煮る、揚げるなどの調理が出来ます。かまど、発電機、野外冷蔵庫、調理器具を搭載していて、トラックなどで牽引が出来ます。かまどを本体から分離して運用することも可能です。炊事能力は、200人分です。

【パーソナリティー】

被災地での温かい食事はありがたいですね。

【局長】

次に、^{やがいにゅうよく}野外入浴セットですが、発電機、野外浴槽、^{てんまく}天幕、貯水タンク、シャワースタンドなどから構成されます。トラックなどで牽引できるようになっており、迅速な展開、撤収が可能です。^{ゆりょう}湯量は1時間当たり約5.4トンで、1日約1,200人の入浴が可能です。

【パーソナリティー】

入浴支援で「どこどこの湯」というのれんをよく見かけます。

【局長】

そうですね。支援している部隊が工夫をして、のれんを出しているものです。

次に紹介したい装備品は、海上自衛隊の輸送艦です。

能登半島地震では、輸送艦「おおすみ」が派遣されました。ホバークラフト型エアクッション艇（^{えるきやつく}L C A C）を2隻搭載でき、医療設備を有するなど、多目的な活用が可能な輸送艦です。後部にはヘリコプター発着場、前方には車両を積むスペースがあり、とても大きな船です。

【パーソナリティー】

ホバークラフト型の輸送艇に油圧ショベルやトラックなどを積ん

で、海岸から輸送しているニュースを見たことがあります。

【局長】

最後に航空自衛隊のC-2輸送機です。

C-2輸送機は、2017年に開発が完了した最新鋭の輸送機で、国際平和協力活動の対応や大規模災害時の輸送など、自衛隊の各種任務を効率的に遂行するために、大搭載量・長距離航続・高速巡航をコンセプトに作られているので、とても頼もしい航空機です。

他にも被災地で活躍する装備品はまだありますが、今日はその一部を紹介させていただきました。

【パーソナリティー】

被災地のニーズに合わせた装備品を用いてそれぞれ活動をされているのですね。

日頃から災害派遣活動を行うための準備をされていると思いますが、どのような事を行っていますか。

【局長】

はい、防衛省・自衛隊では、大規模災害をはじめとする各種の災害に迅速かつ的確に対応するため、各種訓練を実施しているほか、地方公共団体などが行う防災訓練にも積極的に参加して、地方公共団体や関係機関との連携強化を図っています。

今年の11月に予定している「みちのくアラート2024」は、陸上自衛隊東北方面隊を中心に行われる大規模な実動での災害対処訓練です。東北6県の地方公共団体と関係機関が参加して、自衛隊の災害対処能力の維持・向上を図るとともに、災害発生時における地方公共団体、関係機関と自衛隊との連携強化を図る目的で実施するものです。

東北防衛局も訓練をコントロールする統裁部が置かれる東北方面総監部に職員を連絡員として派遣するなどして、参加する予定です。

【パーソナリティー】

地方公共団体や関係機関との連携を確認し、防災意識を高めることは、とても大切ということですね。大変わかりやすいお話でした。

本日は、東北防衛局の池松局長をゲストに迎え、防災関連の番組をお送りしました。

局長、ありがとうございました。

【局長】

こちらこそ、ありがとうございました。